

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		療育支援工房 西高宮教室		公表日 令和8年2月20日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	1	机の配置を考えることで、生徒さんが過ごしやすい、職員さんが生徒さんを支援しやすい環境を整えている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	2	学校での様子を踏まえた支援ができるようにしている。	複数名の生徒さんに対し、職員1人での送迎。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	1	文字やイラストを用いて視覚的に分かりやすくしている。	・段差をなくす
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	0	家具の角を保護し、けがを防いでいる。動線を整理し、ぶつかりやすい場所を減らす。	身辺整理しやすい環境づくり
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	0	静かな環境で生徒さんが落ち着けるようにしている。	複数名の生徒さんがクールダウンを必要とした場合の部屋の確保
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6	1	ミーティングを通して生徒さんの共有事項を確認し、支援につなげている。	清掃や提供記録の記入を朝から行うことが多く、できている時とそうでない時があるため徹底していく必要がある。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0	保護者の意向を踏まえ、業務改善につなげている。	評価表を職員全員が確認できていないため、改善が必要。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	1	ミーティングの中で意見を出し合い、生徒さんのより良い支援につながるかを基準に業務改善もできている。	他の業務の兼ね合いでミーティングが実施できない日がある。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	1		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	2	新人研修、中堅社員研修が就業時間の中で研修が行われている。	研修の実施回数や参加機会を改善する。
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7	0	保護者様に対して提供記録の公開や送迎時にご利用の様子を伝えている。	発達段階に応じた活動について、さらに工夫が必要である。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7	0	送迎時での保護者様とのやり取りや、面談を踏まえて支援している。	保護者ニーズを把握する機会を設け、支援計画の見直しを行っている。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	0	生活面や行動面、学習面において共有できている。	情報共有を行い、統一した関わりができるよう努めている。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	0	支援目標を意識しながら、日々の支援を実施している。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	1		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	1	学校・ご家庭と情報共有を行い、支援の一貫性を図っている。	・地域支援に関する情報収集が不十分である。 ・相談の機会が限られている。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7	0	役割分担を行い、状況によってフォローしながら業務を進めている。	目的や狙いを整理する必要がある。

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	1	日々行っている、カリキュラムの内容を見直す機会を設け、対象の生徒さんにとって必要な力をつける練習ができています。	支援を見直す機会を増やしていく必要がある。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7	0	無理のないかたちで集団活動への参加を促している。	集団活動の移行について工夫が必要。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	0	支援前には必ず打ち合わせを行う体制を整えている。	打ち合わせ時間が十分に確保できない時がある。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	2	・振り返りの進め方について工夫している。	・送迎時間の兼ね合いで、十分に時間の確保ができていないため改善が必要。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	0	支援内容や利用時の様子を丁寧に記録できている。	記録内容や書き方にばらつきがある。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	0	モニタリングの時期を明確にし、計画的に実施している。	モニタリング結果を支援に行かせていない場面がある。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5	2	特性によってバランスを考えた支援を実施している。	4つの基本活動に偏りが見られる。
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7	0	選択肢を提示し、自分で決める経験を積めるよう支援している。	特性に応じた選択肢の提示が十分ではない。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	0	それぞれの場所で異なる一面を見せる生徒さんに対して、特性や支援内容を理解した職員が会議を行っている。	全支援員が参加できる会議の機会が十分に確保できていない。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	2	医療機関からの助言を踏まえ、支援に反映させている。	情報共有の方法や連絡体制について検討が必要である。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7	0	学校での様子を情報提供していただき、支援内容に反映させている。	情報提供の頻度を増やすこと。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	2	保育所の方が書いてくださった、保育園等での様子をがわかるシートがあれば職員間で共有している。	すべての生徒さんについて十分とは言えない場合がある。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5	2	担当者会議を通して保護者の思いを聞き取り、進路の話をするところがある。	早期からの情報提供や引継ぎに課題が残っている。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4	3	客観的な視点を取り入れている。	十分に結びついていない。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3	4	外出イベントにて一般のお客さんとの交流はほんの一部ある。	公園に行くことがないため、直接的な関わりは少ない。
33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	3	4	得た情報を共有している。	協議会に参加している職員との理解の差	
34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7	0	・保護者との対話を大切にし、情報共有を図っている。 ・良い面だけでなく課題面も共有している。	十分な時間がとれず、伝えきれていない内容がある。	
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	3	日々のお伝えで保護者にわかりやすく伝える工夫をしている。	家族支援プログラムの実施が不十分	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7	0	個々の家庭状況に応じて説明している。	説明は行っているが、理解されていない場合がある。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	0	家族の思いや希望を丁寧に聞き取っている。	聞き取る機会はあるが、保護者によって引き出せていない場合がある。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7	0	可能な限り足を運んでいただき、面談を行うことで丁寧な説明のもと同意を得ている。	お仕事の都合上、十分な時間が取れない場合もある。

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	0	必要に応じて支援ができています。	利用時の一部の様子しか伝えられないこともある。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	2	5	保護者同士で関わりがあるご家庭は把握している。	保護者会等の開催は行われていない。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	0	苦情があった場合は、事実確認を行い、対応に適正な職員が迅速に対応している。	振り返り・再発防止の徹底
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7	0	イベント前の連絡やブログ等を発信している。	引き続き、頻度や内容に偏りがないように発信する。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	0	個人名や顔写真は十分に気を付けて業務を行っている。	個人情報の重要性について職員研修を行い、適切な管理を徹底していく。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	0	発達特性や保護者の状況に応じて、言葉や手段を使い分けている。	情報伝達に関する配慮や体制が十分ではない場合がある。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	5	外出イベントにおいては、交流の機会もある。	地域との交流機会が十分でない。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	0	マニュアルを整備し、定期的な訓練を行っている。	今後は整備と訓練の頻度を上げて、行う必要がある。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	0	非常災害の発生を想定し、避難訓練を実施している。	災害に備えた食料等の準備をしておく必要がある。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7	0	薬の持参があった場合には、服薬依頼書を確認し、保護者の同意を得てから対応している。	予防接種の情報が不足している場合がある。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7	0	おやつを選ぶ際、入れ物を完全に分けて誤って口にすることがないようにしている。	医師の指示所に関しては、見受けられない場合もある。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7	0	予め危険な場所には立ち入りを禁止し、机の角等、怪我の恐れがあるものは、保護している。	予想外の行動をする生徒さんに対しては、さらに工夫する必要がある。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	0	日々の記録や送迎時のお伝えにて、ご家族に周知している。	周知方法の見直しが必要。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	0	他教室で起こったヒヤリハットを職員さんに共有し、再発防止に努めている。	共有で終わるのではなく、職員1人1人が自教室で起こりえることと認知する必要がある。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	0	年に1度、研修の機会を設けている。	研修内容をさらに充実させる。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7	0	怪我をする可能性がある場合は、安全のため身体拘束を行っている。	組織的な決定の場を設ける必要性が考えられる。	